中間報告書（平成 22 年度）

提出者　　岩井八郎

提出年月日　　2011 年 3 月 30 日

【プロジェクト名】

和文　数量調査によるアジアの家族と社会研究

英文　Quantitative Research Group on Asian Families and Societies

【メンバー構成】

研究代表者　岩井八郎

幹事

メンバー　鍛冶致、溝口佑爾、岡田丈祐、竹内麻貴

【ねらいと目的】（600 字程度）

アジア社会の近年の変動と家族との関係を大規模な数量調査の結果を比較することによって明らかにすることが、研究プロジェクトのねらいと目的である。本年度は、アジア諸国で進む急速な女性の高学歴化と家族意識、家族関係との関係に焦点を当てて、EASS2006 の東アジアの家族調査の２次分析を中心に研究活動を計画した。EASS2006 は、日本、韓国、中国、台湾が対象だが、2010 年に同様の調査がタイで実施され、そのデータ分析も開始した。個別のテーマとしては、高学歴化が男女の社会的地位達成に及ぼす影響、高学歴女性における性別役割意識の類似性と差異、親に対する経済的援助に対する意識の比較、子育ての意思決定に関する父と母の関係などを扱うこととした。女性の高学歴化は、性別役割観や家意識等の意識の面での変化に大きな影響を及ぼすが、家族関係や家族における日常活動には大きな影響を及ぼすには至っていない。日常活動には、それぞれの社会に固有の伝統や思想が影響を及ぼし、各国別の差異となって現れていると予想される。このような仮説をもって、各国のデータを詳細に検討しながら、各国の家族の変化の現状と将来を考察することが研究プロジェクトのねらいでもある。また、研究結果を海外の研究者との研究セミナーにおいて報告し、意見交換を行いながら、研究テーマの深化をめざしている。

【活動の記録】

2010 年 6 月 29 日　第１回研究会：研究会の活動方針についての打ち合わせ

2010 年 7 月 29 日　第２回研究会：岩井紀子・保田時男編『データで見る東アジアの家族観』（ナカニシヤ出版、2009 年）に基づき、EASS2006 の分析を開始。各自分析結果を報告

2010 年 8 月 30 日　第３回研究会：『データで見る東アジアの家族観』に基づき、EASS2006 を分析する。各自分析結果を報告。

2010 年 9 月 8 日　第４回研究会：『データで見る東アジアの家族観』に基づき、EASS2006 を分析する。各自分析結果を報告。

2010 年 10 月 5 日　第５回研究会：10 月 14 日のコアプロジェクト合同研究会における報告内容を検討。

2010 年 10 月 14 日　第１回コアプロジェクト研究会

岩井八郎・溝口佑爾・岡田丈祐・竹内麻貴

「データからみる東アジアの高学歴化と家族観―EASS による日韓台中の比較―」

2010 年 12 月 3 日　第６回研究会：EASS2006 とタイ調査データの分析。各自分析結果の報告。

2010 年 12 月 14 日　GCOE ビジネス・ミーティング

- Hachiro Iwai, “Quantitative Research Group on Asian Families and Societies.”

2011 年 1 月 14 日　第 7 回研究会：台湾研究出張の打ち合わせ。

2011 年 1 月 19 日～1 月 23 日　台湾研究出張、これまでの研究結果の報告と台湾研究者との交流

- 1 月 20 日　午前 10 時～　国立政治大学社会学部において研究会
- 1 月 20 日　午後 2 時～　国立中央研究院、社会調査研究所において研究会
- 1 月 21 日　午前 10 時～　国立台湾大学社会学部において研究会
- 1 月 21 日　午後 2 時～　台北市立第一女子高級中学、台北市立建国高級中学を見学
- 研究会での報告は、以下の通り。
  - Hachiro Iwai, “Quantitative Research Group on Asian Families and Societies.”
  - Yuji Mizokuchi, “Attitude to Financial Support: from Married Women to their own Parents.”
  - Josuke Okada, “Power Relation on Childrearing Decision.”
  - Maki Takeuchi, “Married Women’s Attitude toward Economic Recession.”

2011 年 3 月 8 日　International Seminar: Families in Southeast Asia: in Comparison with East Asia

- Hachiro Iwai & Maki Takeuchi, “The Expansion of Women’s Higher Education and its Effects on Family Values and Practices in Asian Societies: A Preliminary Analysis of the EASS 2006 and Thai Family Survey 2010.”
- Yuji Mizokuchi & Itaru Kaji, “Different Patterns of Desirable Financial Assistance to Parents in Asian Societies.”
- Josuke Okada, “Different Patterns of Childrearing Decision between Father and Mother.”

2011 年 3 月 15 日　第 8 回研究会：関西社会学会における研究報告の打ち合わせ

【成果の概要】（800 字程度）

研究班では、まず、『データで見る東アジアの家族観』で提示された基本的な分析結果について、同じ結果が得られるかを EASS2006 の再分析によって確認した。その後、各自の研究関心に従って分析を進めた。またタイの調査データが利用可能になったので、同様の分析をタイについても開始した。これまでの成果と課題としては、以下のようである。

女性の高学歴化と家族観ならびに家事分担に関する比較研究：韓国と台湾は若い世代の女性で高等教育進学率が急速に拡大した。これまでの研究では、以下の結果が得られている。性別役割分業意識に関して、高学歴女性は平等を支持する傾向が高いのだが、その傾向は韓国と台湾で大変強い。しかし家事分担については、日本と韓国では、女性が家事を担う傾向が依然として強く、学歴間の差は小さい。タイの場合、一般に性別役割分業を支持する傾向が強いのだが、家事分担については、他の社会よりも平等である。台湾の場合、他の社会よりも家事の頻度が低い。以上のような分析結果について、各社会の伝統や社会変化の特徴をふまえて、深い考察を行うことが課題である。

親に対する経済的支援意識の研究：親に対する経済的支援意識の比較研究の結果では、とくに台湾の高学歴女性において、自分が親に対して経済的支援をするという傾向が強い。台湾の場合、女性の高学歴化が経済的地位の向上と関係している点がこの結果の背景にあると考えられるので、今後の研究の課題とする。

子育ての意思決定に関する父と母の関係：子育てに対して、父と母のどちらが意思決定を行うかについて、各社会の比較を行っている。親の学歴が同じ場合と異なる場合を比較して、高学歴女性の特徴を比較する。これまでの研究結果では、韓国の高学歴女性で子育ての方針を決定する傾向が強い点が明らかになっている。家庭におけるパワー関係が、女性の高学歴化とどのように関係するのかについて、今後も分析と考察を深める予定である。

【通信欄】

（事務局記入欄）

プロジェクト	□次世代　□次世代ユニット　□男女共同参画に資する調査研究	
経費	予算額　（千円）	実績額